



## 自己の振り返りの大切さ

副校長 谷口 英昭

先日、校舎内を歩いていると、廊下で男の子二人が小競り合いをしていました。最初は、笑顔も見えちゃれているようにも見えたのですが、顔つきがだんだん険しくなり、腕をつかんでいる手にも相当力がかかっているのもわかります。



そこで、声をかけ、どうしたのか事情を聴きました。

すると、互いに「相手が胸をつきとばした。」「相手がたたいてきた。」と自分が被害を受けたことを主張します。そこで、相手に「した」と言われていることは事実かどうか尋ねると、二人とも「事実」とであると素直に認めました。では、なぜそんなことを相手は自分にしたのか考えるように言うと、「相手が何度も『やめて』と言っているのに無視したから」「相手の言葉に腹が立って仕返しをしようと思ったから」といった返事がありました。そして、自分がどうすればよかったか考えるように言い、それぞれが相手に伝え合いました。



最初はささいなことからだんだんエスカレートし、相手にされたことよりもさらに強く仕返しをしようとし、大きなケンカになっていきます

人間関係を良好に保つためにも、「折り合い」をつけることができるようにするためにも、この二人のように、自己の振り返りができるようにしたいものです。

## 和気あいあいのPTCC委員会実施

9月24日(木)に懇話会主催のPTCC委員会が開催されました。

今回は、本校が1年生から実施している「英会話活動」について、実際に授業を担当している漆原先生と福井先生が説明をさせていただきました。



【模擬授業体験】

授業に使っているテキストブックを実際に活用しながら模擬授業を行い、保護者の方に疑似体験をしていただきました。みなさん笑顔で、楽しそうに参加してください、和やかな会となりました。

また、制服等のリユースも実施し、保護者の皆様から提供していただいた制服・シューズ等をご希望の方に持ち帰っていただきました。



【寄贈していただいた制服等】

こうして使える物をリユースし、物を大切にするとともに、相互扶助していく活動を今後も継続していきたいです。

## 10月の主な行事予定

- 3日(土) 附属幼稚園運動会
- 4日(日) 第2回尚徳クリーン活動
- 5日(月) 合服衣替え
- 8日(木) 前期終業式
- 9日(金) 学期間休業日(～10/13)
- 10日(土) 附属特別支援学校ふれあいまつり
- 12日(月) 体育の日
- 14日(水) 後期始業式  
路線別児童会
- 15日(木) 県陸上大会(代表選手参加)
- 16日(金) 第1回児童募集説明会  
おはようおはなしの会(上学年)
- 17日(土) 第2回児童募集説明会
- 20日(火) おはようおはなしの会(下学年)
- 21日(水) 第3回児童募集説明会
- 23日(金) 附属小学校研究発表大会前日準備  
(給食後下校)
- 24日(土) 附属小学校研究発表大会
- 26日(月) 代休日
- 28日(水) 鳥取市小学校教育研究発表会(給食後下校)
- 30日(金) ふれあい遠足・弁当の日

## さわやかな天候のもと秋季大運動会実施



【勇壮な和太鼓クラブの演奏】



【バランスに気を付けて】

9月12日（土）に秋季大運動会を実施しました。

今年は、雨の日が続き、グラウンドでの練習がほとんどできない状況で大会当日を迎えました。しかし、そんな中でも、子どもたちは、学年の種目や色別班に分かれた演技や応援、委員会の係の仕事など精一杯取り組みました。決してベストではない環境の中でもよりよく工夫して前進する姿は、まさしく『生きる力』ではないでしょうか。

最後に、運動会の準備や当日の駐車場整理などにご尽力くださった懇話会の役員の皆様をはじめ、子どもたちに声援を送ってくださったすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



【力を合わせてボール送り】



【親子で楽しく競技】

## 落ち着いて！避難訓練実施（地震対応）

9月18日（金）に、小中合同避難訓練を実施しました。今回は、地震を想定し、落下物に気を付けながら避難しました。

今回は、火災の時と同様に、小中の兄弟姉妹を確認し、大災害時の保護者の方への引き渡しを想定した訓練も予定していましたが、雨天のため、小・中別々に実施しました。

大津波が想定される地震の場合、迅速な判断と避難場所への避難が急務です。ご家庭で地震に遭遇した場合に備えて、緊急の避難場所等の約束事を決めておき、いざという時に対応できるようにお願いします。



【落ち着いて避難】

## 鳥取市小学校陸上大会参加

9月28日（火）に、さわやかな秋晴れの下、鳥取市陸上大会に5・6年生の選手が参加しました。夏休み中から練習に取り組み、この日のためにがんばってきた子どもたちの大会です。すべての人が自己目標を達成したわけではなく、中には悔しい思いをしている人もあるかもしれません。

しかし、どの子も真剣に、最後の最後までがんばっていました。また、友達の応援を力いっぱいしていました。その姿は、まぎれもなく尊く、そして美しいものでした。



選手全員に拍手！【友達に大きな声援を送る】

## 「好き」と言えること

附属小学校 教諭 池本佐知子

先日、家族と一緒に、島根県立美術館の「伊藤若冲と京の美術」展に行きました。（江戸時代を代表する画家・伊藤若冲と、華やかな京の姿を映す遊楽図や祭礼図、古典文学を題材とした物語絵や歌仙絵、そして茶の湯の美術など、「京」の面影を今に伝える古美術が展示されています。）

実は私は、家族であろうと友だちであろうと、美術館と一緒に行くのは好きではありません。じっくり作品に浸りたいときに、「ねえ、まだ？」とせかされるのも腹立たしいし、かといって、もっと見たい作品があるのに待たされるのも時間をもったいない。なぜこんなことが起こるのかというと、たとえ同じ作者の作品でも「好きだなあ」と感じるものは、人によって様々だからです。

最近、図画工作の学習をしていて感じるのは、好きな絵や色を選ぶときに「何でもいい」「友だちと同じでいい」という子どもが増えてきていることです。友だちと違うことに抵抗があり、自分の「好き」を堂々と出せないのは、なんだか寂しい気がします。「好き」は他の人と違って当たり前。十人いれば、十通りの「好き」があっただけです。「好き」なものを見つける感性と、それを表現できる環境を整えていきたいですね。